

新型コロナウイルス感染症に対する出生後早期の新生児への対応について

2020年2月26日（第1版）

日本新生児成育医学会
理事長 中村友彦
感染対策予防接種委員会
委員長 森岡一朗

2019年12月に中国湖北省武漢市で発生した新型コロナウイルス感染症は、武漢市を中心に大規模な流行が認められました。その後、我が国においても患者報告数が増加傾向にあります。2020年2月26日現在、我が国においてまだ報告はございませんが、今後新型コロナウイルス感染症の母親から出生する新生児の対応が必要となる場合が想定されます。本学会では、現時点の知見をもとに新型コロナウイルス感染症に対する出生後早期の新生児への対応案を作成いたしました。

中国から新型コロナウイルス感染症の母親9人において子宮内感染はなかったとの報告¹⁾や新型コロナウイルス肺炎を発症した母親からの出生児10人は、子宮内感染はなかったものの因果関係までは明確にされていませんが、死亡1例を含み、胎児機能不全、早産出生、呼吸障害、血小板減少、DICなどがあったとの報告があります²⁾。中東呼吸器症候群ウイルス感染症妊婦からの出生児と似ています³⁾。しかし、新型コロナウイルス感染症に関連する周産期および出生後早期の新生児領域に関する情報は非常に限られています。この対応案は、現時点の知見と流行状況に基づいた暫定的な案であり、今後の新知見や流行状況により改訂する必要があります。

出生後の新生児の管理について

現時点において、新生児が新型コロナウイルス感染症により重症化するかどうかは不明である。しかし、新型コロナウイルス感染症に関連した新生児への感染を防ぐ対応（主に隔離および飛沫・接触感染予防策）をすることが推奨される^{4)~6)}。

1. 母親が新型コロナウイルス感染症を発症し分娩に至った、あるいは、感染症症状消失後まもなく分娩に至った場合

- 母から子へウイルスの飛沫・接触感染を防ぐために、分娩後より一時的に母と子は分離し、母親は個室隔離、子は保育器隔離またはコホート隔離を行う。児は可能であれば、陰圧管理個室が望ましい。十分なスペースがない場合は、他児との間をパーテーション等で分離する。医療従事者は、フェイスマスク等も使った飛沫・接触感染予防策を十分講じ、ケアや治療を行う。
- 母児同室の希望がある場合は、母親や家族と十分に話し合い検討する。
- 児の症状の観察とバイタルサインのモニタリングを行い、発症時は、院内の感染対策チームや保健所等に連絡し、ウイルス学的検査を検討したのち、適切な対症療法を行う（小児例ですが、文献7に症状、検査、治療が記載されている）。

2. 母親が分娩後～産院退院までに発症した場合(カンガルーケアや直接授乳などすでに濃厚接触している場合)

- 個室にて、直ちに飛沫・接触感染予防策を講じて母子同室による隔離を行う。その際、児を保育器に収容する等の予防策を講じ、母子間の飛沫・接触感染の可能性につき十分注意を払う。可能であれば、陰圧管理個室が望ましい。
- 母親の発症状況や児への曝露の程度を総合的に判断して、必要な場合、嚴重な症状の観察とバイタルサインをモニタリングできる環境に児を移送し、発症の有無を確認する(小児例ですが、文献7)に症状、検査、治療が記載されている)。
- 移送後の児は、保育器管理のうえ、他児との間隔を2m確保する。可能であれば陰圧管理可能な個室管理とする。保育器がない場合はコホート隔離として他児と十分な距離をとる(2m以上)。発症時は、院内の感染対策チームや保健所等に連絡し、ウイルス学的検査を検討したのち、適切な対症療法を行う。医療従事者は、フェイスマスク等も使った飛沫・接触感染予防策を十分講じ、ケアや治療を行う。

3. 早産児

- 多くの児は出生後、NICUに入院していることから、可能であれば陰圧管理可能な個室管理とする。それができない場合は、保育器管理のうえ、他児との間隔を2m確保し、早産児の治療やケアを行う。保育器がない場合は他児と十分な距離をとる(2m以上離してコホート隔離を行う)。
- 児の症状の観察とバイタルサインのモニタリングを行い、発症時は保健所等に連絡し、ウイルス学的検査を検討したのち、適切な対象療法を行う。医療従事者は、フェイスマスク等も使った飛沫・接触感染予防策を十分講じ、ケアや治療を行う。
- 母親は感染のリスクが低くなったと判断されるまでは、原則、NICUへ入室しない。NICUへ入室できる状態になっても十分な飛沫・接触感染予防策を講じて入室する。

児に感染が生じなかった場合の隔離や入院期間に関しては、母親や家庭の感染リスクを鑑みて個別に判断する。

母乳の取り扱い・直接授乳について

母親が感染症状を呈している場合は、接触や飛沫を介して児が感染するリスクがあるので、現時点においては、直接授乳は避けることが望ましい。ただし、母乳はできるだけ搾乳し、児に与える⁵⁾。

日本産科婦人科学会からは、以下の推奨が出されている⁸⁾⁹⁾。

「コロナウイルス感染が確定し発熱を認める褥婦においては母体がウイルス血症となっていることが考えられ、授乳は控えるように指導する。解熱後3日までは感染力があると判断し、個室隔離、手洗い、接触のある物を次亜塩素酸ナトリウム(0.1%)で拭き上げることを徹底する。授乳開始は解熱後4日目を目安とする。(ただし、今後の解明によって上記の日には変更されうる)」

しかし、CDC は母乳を搾乳で与えることを推奨し、母親の十分な飛沫・接触感染対策を行えば、直接授乳も可能としている⁵⁾。新型コロナウイルス感染に関連した母乳の情報は現時点でない。そのため、今後の知見やデータにより改訂する必要がある。

現時点で、いつから直接授乳のための母子接触が可能かの明確な基準はなく設けることはできないが、母親の症状が消失し、感染のリスクが低くなったと判断された時から行うことを勧める。

文献

- 1) Chen H, et al. Clinical characteristics and intrauterine vertical transmission potential of COVID-19 infection in nine pregnant women: a retrospective review of medical records. Lancet. 2020
[https://doi.org/10.1016/S0140-6736\(20\)30360-3](https://doi.org/10.1016/S0140-6736(20)30360-3)
- 2) Zhu H, et al. Clinical analysis of 10 neonates born to mothers with 2019-nCoV pneumonia. Annals of Translational Medicine. 2020
<http://tp.amegroups.com/article/view/35919/28105>
- 3) Schwartz DA, et al. Potential Maternal and Infant Outcomes from Coronavirus 2019-nCoV (SARS-CoV-2) Infecting Pregnant Women: Lessons from SARS, MERS, and Other Human Coronavirus Infections. Viruses. 2020 12 (2) . pii: E194. doi: 10.3390/v12020194.
- 4) Favre G, et al. 2019-nCoV epidemic: what about pregnancies? Lancet. 2020
[https://doi.org/10.1016/S0140-6736\(20\)30311-1](https://doi.org/10.1016/S0140-6736(20)30311-1)
- 5) CDC. Interim Considerations for Infection Prevention and Control of Coronavirus Disease 2019 (COVID-19) in Inpatient Obstetric Healthcare Settings. <https://www.cdc.gov/coronavirus/2019-ncov/hcp/inpatient-obstetric-healthcare-guidance.html>
- 6) CDC. Interim Infection Prevention and Control Recommendations for Patients with Confirmed Coronavirus Disease 2019 (COVID-19) or Persons Under Investigation for COVID-19 in Healthcare Settings. <https://www.cdc.gov/coronavirus/2019-nCoV/hcp/infection-control.html>
- 7) Shen K, et al. Diagnosis, treatment, and prevention of 2019 novel coronavirus infection in children: experts' consensus statement. World Journal of Pediatrics. 2020 doi: 10.1007/s12519-020-00343-7.
- 8) 日本産科婦人科学会. 妊婦・産褥婦の新型コロナウイルスの感染予防対策について. http://www.jsog.or.jp/news/pdf/20200206_coronavirus.pdf
- 9) 日本小児科学会. 新型コロナウイルス感染症に関する Q&A (2020 年 2 月 12 日現在) について.
http://www.jpeds.or.jp/modules/activity/index.php?content_id=326